

第38回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成22年4月23日

テクノ交流館リコッティ（日本原子力学会北関東支部総会 会場）

2. 来訪者：13名

3. 説明概要：

日本原子力学会 北関東支部総会ポスター発表会場の展示エリアにおいて、ITER機構職員募集および登録の案内を行うとともに、学会参加者に資料を配布し、模擬面接ビデオを紹介した。（ITER協力調整グループ 安東SGL、上野）

4. 主なQ&A

Q：現在、ITER機構で何人の日本人が働いていますか？

A：ITER機構において働いている日本人職員は3月末現在で、専門職員が24人、支援職員が6人です。もっと多くの日本人職員がITER機構で働いてくれることを願っています。原子力機構では、ITER機構職員募集に関する情報提供のための登録制度を設けており、応募する方々のお役に立てるよう支援を行っております。詳しくはこちらを参照下さい。

http://naka-www.jaea.go.jp/ITER/recruit/boshu_midashi1_information_system.html

Q：ITER機構において求められている人材について教えてください。

A：募集が多いのはITER に備え付けられる機器の製作や現地での据付・試験を担当する研究者・技術者です。核融合装置に関する直接の経験がある研究者・技術者以外にも、プラント機器開発や製作の経験者、国際プロジェクトの経験者など、幅広く人材を求めています。また、人事や財務、契約などの事務系の職員も募集しています。詳しくは、ITER機構HPの人材募集ページ、あるいは原子力機構那珂ITERHPを参照下さい。

<http://www.iter.org/Pages/Jobs.aspx>

http://naka-www.jaea.go.jp/ITER/recruit/koubo/koubo_boshulist_past.html

Q：ポジションの募集は、今後もありますか？

A：想定している定員は600人程度であり、現在の職員数は約450人なので、まだしばらく新規ポストの募集があると思われます。また、ITER機構を辞める人があれば、空席になるポストが募集されます。

Q：フランス語を話せる必要がありますか？

A：ITER機構における公用語は英語です。このため、英語ができれば仕事上の問題はありません。フランス語が必要とされるポジションもありますが、その場合は該当ポジションの募集に際してJob Descriptionに（フランス語が必要であると）記載されています。また、ITER機構の職員や家族は、現地で無料のフランス語のレッスンプログラムを受講することができます。

以上



原子力学会北関東支部ポスター会場にて 展示エリアの様子